

市民と野党共同で未来拓こう

しまね総がかり 中林氏・野党各党がスピーチ

しまね総がかり行動実行委員会は16日、松江市で集会を開きました。「住民目線で政治を変える会・山陰」共同代表の福岡浩彦さんが基調講演し、市民と野党各党の代表が発言。参院鳥取・島根選挙区の野党統一予定候補(無所属)の中林よし子元衆院議員が決意を語りました。

福岡氏は「自分と異なる意見を排除する安倍政権には未来を託せない。互いに異なる意見を認め合い、対話を通じてよい改革の方向を見いだす政治の文化を、選挙を通じて実現しよう」と提起しました。中林氏について「無所属というのを生かし、自民党を支持してきた人とも対話を広げ、安倍政権のやり方を変えていこう」と呼びかけました。

中林氏は「今の政治を変えたい熱意があれば必ず支援の輪が広がる。最後まで頑張り抜く」と表明しました。

日本共産党の後藤彦典委員長、社民党県連

いよいよ挑戦のとき

議席奪還から6年。国会質問は230回を超え、安倍総理との直接対決は24回にのぼります。どんなときも「現場第一」「超党派で共同」を貫いて政治を動かしてきました。皆さんのご支援に心から感謝申し上げます。いよいよ3期目に挑戦のときが来りました。

私は、西日本17県から本気の野党結集の先頭に立ちます。トランプ大統領に媚びるだけの安倍政治。辺野古でも本土でも米軍増強、兵器は爆買い、食と農を壊す亡国政治。「来年、改悪憲法を施行」など絶対に許しません。

消費税10%増税を中止に追い込みます。決め手は大企業・富裕層にも中小企業並みの税金を払ってもらおうこと。抜本賃上げ・社会保障・子育て支援。くらしに希望を切り開き

熱血・弁護士に

仁比 参議院議員

Hotレポート

「あまりの低さにパイロットのヘルメットがはつきり見える」「6年前、夜間訓練に泣き叫んだ2歳の子が8歳になるのに、昨夜『あんとき沢山泣いたよね』と。親として耐えられない」との訴えに、防衛省の担当者も「心苦しい」と黙り込むし

の山本善代表があいさつ。立憲民主党と国民民主

尾村県議の質問(続き)

日米貿易交渉の中止を

TPP11、日欧EPAの発効で、オーストラリアやニュージーランド、欧州諸国からの牛・豚肉や乳製品などの輸入が急増し、日本の農業や畜産業は重大な危機に直面しています。

尾村県議は「この上、さらに日米貿易交渉で農産物の輸入拡大、サービスマーケット開放が押し付けられるなら、日本の農畜産業は破綻してしま

ます。原発ゼロ・自然エネルギー優先で、豊かなふるりの宝を活かします。

6日。高知県本山保育所のお母さんたちが「米軍機の低空飛行はやめて」と上京。「ここは日本なのか。下には子どもたちの命がある。米軍に届けて欲しい」と手書きの葉書202枚を政府に手渡ししました。

「あまりの低さにパイロットのヘルメットがはつきり見える」「6年前、夜間訓練に泣き叫んだ2歳の子が8歳になるのに、昨夜『あんとき沢山泣いたよね』と。親として耐えられない」との訴えに、防衛省の担当者も「心苦しい」と黙り込むし



豪雨災害政府交渉(5月29日、国会内)

アベ政治を終わりに...

よし子さんは今から9年前、政界引退を表明した。それは、長年、よし子さんを支え続けた母トミコさんが高齢となり、家事ができなくなったためである。その後、家事はもちろん施設に通うようになったトミコさんの介護の世話などに忙しい日々を過ごしながらも、「沖繩と連帯する島根の会」を立ち上げ、事務局長として奮闘してきた。

「野党共同の実現へ全力尽くす」と

そんな中、昨年の9月、トミコさんが天寿をまっとうした。

時同じくして、夏の参院選で安倍暴走政権を打倒しようとする野党共同の動きが高まった。なかなか共同の組める野党候補が決まらない中、白羽の矢が再びよし子さんと回ってきた。よし子さんは「いったん引退した者が再び立候補することに躊躇がなかったかと言えばウソになります。しかし今の政治状況を考えると、一日も早く国民不在で党利党略の悪政をゴリ押しする安倍政権を倒すには決断しかならないと思ひ引き受けることにしました」と決意のほどを語る。

元衆議院議員(4期9年)

よし子さんを語る

40数年前の決断が再び蘇って

よし子さんが言うように、いったん引退した政治家が再び候補者となるのは容易ではない。ましてや、よし子さんは、その大半がバツチのない候補者活動を経験し、候補者としての苦労が身にしみてわかっているだけに、大いに悩んだ末の決断だったのだろう。

よし子さんの最初の決断は、40数年前の初立候補の時である。すでに小欄でも触れてきたように、その決断を後押し

したものは、戦後まもなく夫を亡くし、女手ひとつで3人の子供を育て上げたトミコさんの苦勞を、島根の私たちの苦勞として心に刻んだことであつた。そして今、そのトミコさんを

晴雄 (8) 長い介護の末亡くしたよし子さんは「父は先の戦争がもとで死に、そこから母の苦勞も始まった。今、平和憲法を変えて再び戦争する国づくりを進めようとする安倍政治はなんとしても阻止しなければならぬ。40数年前の決断が蘇りました」と、母の墓前に報告した。

秘書 吉川 晴雄 (8) 長い介護の末亡くしたよし子さんは「父は先の戦争がもとで死に、そこから母の苦勞も始まった。今、平和憲法を変えて再び戦争する国づくりを進めようとする安倍政治はなんとしても阻止しなければならぬ。40数年前の決断が蘇りました」と、母の墓前に報告した。

「花には太陽を 子どもに平和を

ずいぶんと前に、よし子さんと隠岐に渡った。浦郷の港で休憩していると、お年寄りが近付いてきた。「わしや近くに住む者じゃが、よし子さん色紙を書いてくれんかの。すぐに持ってきますんで」。よし子さんは快く引き受け「花には太陽を 子どもに平和を」と書きあげた。「玄関に飾っておく」と言っただけで帰った。「平和」は、戦争がもとで幼くして父を亡くしたよし子さんの政治家としての原点なのだ。(おわり)



「中林さんは今の情勢に最もふさわしい候補者」と訴える市田忠義党副委員長とともにガンパローをコール。(6月6日、松江市の決起集会で)